

社会的インパクト評価イニシアチブ 第1回ロードマップ作業部会

# 社会的インパクト評価推進のためのロードマップ

2016年8月5日

社会的インパクト評価イニシアチブ事務局

# 社会的インパクト評価の推進に向けて（概要）

～社会的課題解決に向けた社会的インパクト評価の基本的概念と今後の対応策について～

平成28年 3月  
社会的インパクト評価検討  
ワーキング・グループ報告書

## 1. なぜ必要なのか

- 国際的な潮流：資金の出し手の姿勢が変化（より成果を求める流れ）
- 日本の現状：社会的課題が多様化・複雑化。意欲のあるあらゆる主体が知恵や技術を最大限発揮し、成長できる環境が必要
- 社会的インパクト評価は社会的課題の解決力を高める礎
  - 評価を通じ事業・活動の内容や方法を不断に見直し、組織運営の改善を図ることで組織が成長。
  - また、説明責任につなげていくことで資金、人材が公益活動に参画し、新たな手法を生み出すイノベーションをもたらす。

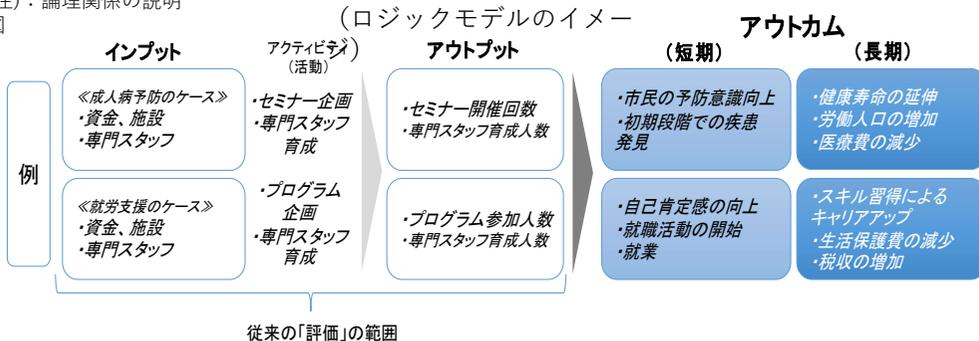
## 2. 社会的インパクト評価とは

社会的インパクト：短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的な「アウトカム(効果)」  
社会的インパクト外評価：社会的インパクトを定量的・定性的に把握し、当該事業や活動について価値判断を加えること

### （社会的インパクト評価の特徴）

- ・アウトプット評価に止まらず、その先のアウトカムを評価
  - ・「ロジックモデル<sup>(注)</sup>」を活用し「インプット」、「アウトプット」から「アウトカム」に至るまでの論理的な結びつきを明らかにする。
- ⇒事業計画の実効性や事業成果に関する**説明責任**へ（⇒更なる資源獲得）  
⇒評価を通じた課題等の発見が、事業や組織運営の改善へ（**学び・改善**）

(注)：論理関係の説明  
図



### （評価の意義・効果の例）

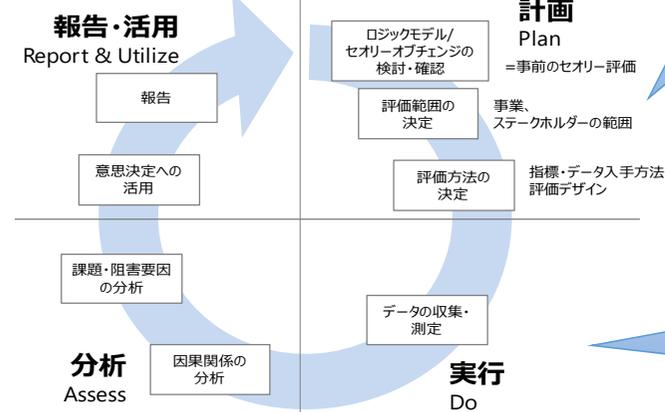
- ・事業者：人材・資金の獲得、事業改善・組織管理・運営の向上 等
- ・資金仲介者：資金の有効性の根拠、事業・活動の進捗・業績把握 等
- ・資金提供者：支援先の組織、事業・活動内容、実現可能性の判断材料 等

### （評価の原則（例））

- ・重要性、比例性、比較可能性、利害関係者の参加・協働、透明性

## 3. どのように行うのか（評価の方法）

### （評価過程（プロセス））



事業の計画段階からロジックモデル/変化の理論の確認作業を利害関係者がコミュニケーションを図りながら行う。

定量データ、定性的情報双方を活用することが望ましい。

### （分析手法の例）

	概要
事前・事後比較	事前・事後の指標値を比較
時系列	事業実施前と後のトレンドの変化を比較
クロスセクション	一時点で地域や個人間の事業実施状況とアウトカムの相関関係をみる
一般指標	全国平均値などの一般指標値と比較
マッチング	実施グループとそれに近いグループを選定し比較
実験的手法	無作為割付けにより実施グループと比較グループに分け、その差を比較

## 4. 普及に向けた課題と対応策

### （課題）

- ①意義や必要性に対する「理解不足」、②手法に対する「理解不足」、③手段（ツール）の不足、④基礎的な情報の未整備、資料の不足、⑤評価人材の不足、⑥評価コストの負担と支援の在り方

### （対応策：今後1年以内に着手すべき主な取組）

- ①評価普及のためのシンポジウム開催と「評価推進フォーラム」の立上げ
- ②「評価宣言」と「ロードマップ」の作成
- ③評価に関する用語の邦訳と定義の明確化
- ④「変化の理論」「ロジックモデル」等基本ツールの手引書（日本語）整備
- ⑤海外の先行文献のリスト化と主要文献の邦訳化
- ⑥評価の担い手の育成を目的とした講習会の実施とモデル事業
- ⑦評価事例（ベスト・プラクティス）蓄積とピア・レビュー実施による知識共有化

# 普及に向けた課題と対応策（内閣府WG報告書）

## 課題

- 意義や必要性に対する理解の不足
- 手法に対する理解の不足
- 標準的な手法や指標、手段（ツール）の不足
- 土台となる用語の定義や海外文献の日本語訳などの、基礎的な情報の未整備、資料の不足
- 評価人材の不足
- 評価コストの負担や支援の在り方

## 対応策（着手すべき主な取組）

- インパクト評価普及を目的としたシンポジウムの開催と評価推進に関するフォーラムの立上げ
- 関係者による「評価宣言」と「ロードマップ」の作成
- 評価に関する用語の邦訳と定義の明確化
- 日本語による「ロジックモデル」や「変化の理論」等の基本ツールの手引書の整備
- 海外の先行文献のリスト化と主要文献の邦訳化
- 評価の担い手の育成を目的とした講習会とモデル事業の実施
- 評価事例（ベスト・プラクティス）の蓄積とピア・レビューの実施による知識の共有化

## 取り組みの紹介： Inspiring Impact

社会的インパクト評価推進にあたっては、民間の推進プラットフォームであるInspiring Impactが中心的な役割を果たしている



**ビジョン：** 2022年までに質の高い社会的インパクト評価をソーシャルセクターに普及させる

**参画団体：**



Association of  
Charitable  
Foundations

業界団体  
(助成財団)



National Council  
of Voluntary  
Organizations

業界団体  
(非営利組織)



Building Trust  
Change

非営利組織向け基金



Charities  
Evaluation  
Services

評価機関



Evaluation  
Support  
Scotland

評価機関



New  
Philanthropy  
Capital

シンクタンク



Substance

シンクタンク

- 事業内容：**
1. 社会的インパクト評価の啓発（対事業者および対資金提供者）
  2. 社会的インパクト評価の実践支援（Measuring Up!、Impact Hub）
  3. 社会的インパクト評価の標準的な評価ツールの開発（Shared Measurement）

# 取り組みの紹介：ロードマップ

ロードマップが関係者間の合意で作られた上で、戦略的に施策が実施されている

	2012年	2013-15年	2016-22年	10年先の目標	
<b>リーダーシップとカルチャー</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インパクト測定のエビデンスを構築する</li> <li>業績管理の評価から、測定に関する明確な定義を創り出す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インパクト評価の原則を開発する</li> <li>インパクト・アプローチのケースを創る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インパクト評価の原則を受け入れる</li> <li>増加するインパクトアプローチへのコミットメント</li> <li>インパクトリーダーシップが実践される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くのプロバイダーが、インパクト・アプローチを組み込んでいる</li> </ul>	<p>何千ものプロバイダーのカルチャーにインパクト・サイクルが組み込まれている。</p> <p>自分のサービスのインパクトについて、一貫した計画を行い、管理し、測定し、コミュニケーションをとっている。</p>
<b>ファンダー、コミッショナー、投資家 (F, C&amp;I)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インパクトファンダーのコミュニティを形成する</li> <li>インパクト評価からの失敗と学習のスペースを創出</li> <li>ファンダーは、自身及び投資先に対するインパクトアプローチの価値を認識する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>20のファンダーが評価宣言にサイン</li> <li>助成先に対するインパクト評価支援の原則及びガイドラインが存在する</li> <li>増加するF, C&amp;Isに対するインパクト評価へのコミットメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファンダーがインパクト報告の原則を受け入れる</li> <li>インパクト評価にアクセスするプロバイダーは、ファンダーから支援</li> <li>インパクトと連携した実践を組み込まれているファンダー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミッショナーは、実際（歴史的な）の業績に対する目標をデザインしている。</li> <li>ファンディングの決定と報告は、インパクトに焦点をあてている</li> </ul>	<p>ファンダー、コミッショナー、投資家の大半は、インパクト・アプローチを採用している。</p> <p>インパクト・サイクルは、組織のカルチャーに組み込まれており、プロバイダーへのインパクトアプローチに誘引を与え、支援している。</p>
<b>社会的インパクト評価支援 (IMS)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通診断／自己評価が利用可能</li> <li>用語について合意（インパクト、アウトカム、アウトプット）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インパクト評価アプローチに関する簡単なガイドラインが利用可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織は、自分が必要とする支援にアクセスできる（明確なアクセスポイントを経由して）</li> <li>多くの組織が、インパクト評価アプローチや、使用するD,T&amp;Sの開発方法を知っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援のインパクトがレビューされ、その価値が知られている</li> <li>多くの組織が、自分が必要とするD,T&amp;Sの支援にアクセスする</li> </ul>	<p>効率的な支援のネットワークが存在する。</p> <p>分野別アプローチにリンクしており、ベスト・プラクティスに従っている。大半の組織は、必要とされる支援のことやその使い方を知っている。</p>
<b>データ、ツール、システム (D, T&amp;S)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツールに関するガイドラインを提供する</li> <li>D,T&amp;Sの市場を育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツールのベネフィットや挑戦をレビューする</li> <li>政府のデータ共有のパイロット事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SMのD,T&amp;Sが広範に利用可能</li> <li>データ共有の青写真</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロバイダーが、ツールやシステムの使い方を知っている</li> <li>法令により公開され、アクセス可能な政府の主要データ</li> <li>D,T&amp;Sの利用が規範・標準となっている</li> <li>政府のデータにアクセスすることが、標準となっている</li> </ul>	<p>適切かつ、充分な量の、アクセス可能なデータ、ツール、システムが存在する。</p> <p>それらは、質、比較可能性の点で標準を満たしており、よいインパクト測定(good impact measurement)の実践を支援する。</p>
<b>Shared Measurement (SM)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SMを複数の分野でテストする</li> <li>SMのベネフィットと課題をレビューする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SMの原則に同意する</li> <li>SMの青写真に同意する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SMチャンピオンとスポンサーが契約する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>F, C&amp;Isによって活用されるSM</li> <li>役に立つエビデンスとの連携によって、組み込まれたSM</li> </ul>	<p>Shared measurementアプローチが、大半の分野で適用されている。</p> <p>標準的な手法と指標が利用され、何が作用しているのかについて識別するために共有されている。</p>
			Inspiring Impactが実施すべき優先事項	Inspiring Impactが実施できる優先事項	Inspiring Impactのスコープの外にある優先事項

# ロードマップの構成要素

## ① テーマ

## ④ テーマ毎の幹事団体

## ③ アクションプラン

## ② ビジョン (目標)

	2012年	2013-15年	2016-22年	10年先の目標
<b>リーダーシップとカルチャー</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インパクト測定のエビデンスを構築する</li> <li>業績管理の評価から、測定に関する明確な定義を創り出す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インパクト評価の原則を開発する</li> <li>インパクト・アプローチのケースを創る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>増加するインパクトアプローチへのコミットメント</li> <li>インパクトリーダーシップが実践される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くのプロバイダーが、インパクト・アプローチを組み込んでいる</li> </ul>
<b>ファンダー、コミッショナー、投資家 (F, C&amp;I)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インパクトファンダーのコミュニティを形成する</li> <li>インパクト評価からの失敗と学習のスペースを創出</li> <li>ファンダーは、自身及び投資先に対するインパクトアプローチの価値を認識する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>20のファンダーが評価宣言にサイン</li> <li>助成先に対するインパクト評価支援の原則及びガイドラインが存在する</li> <li>増加するF, C&amp;Isに対するインパクト評価へのコミットメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファンダーがインパクト報告の原則を受け入れる</li> <li>インパクト評価にアクセスするプロバイダーは、ファンダーから支援</li> <li>インパクトと連携した実践を組み込まれているファンダー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミッショナーは、実際（歴史的な）の業績に対する目標をデザインしている。</li> <li>ファンディングの決定と報告は、インパクトに焦点をあてている</li> </ul>
<b>社会的インパクト評価支援 (IMS)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通診断/自己評価が利用可能</li> <li>用語について合意（インパクト、アウトカム、アウトプット）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インパクト評価アプローチに関する簡単なガイドラインが利用可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織は、自分が必要とする支援にアクセスできる（明確なアクセスポイントを経由して）</li> <li>多くの組織が、インパクト評価アプローチや、使用するD,T&amp;Sの開発方法を知っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援のインパクトがレビューされ、その価値が知られている</li> <li>多くの組織が、自分が必要とするD,T&amp;Sの支援にアクセスする</li> </ul>
<b>データ、ツール、システム (D, T&amp;S)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツールに関するガイダンスを提供する</li> <li>D,T&amp;Sの市場を育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツールのベネフィットや挑戦をレビューする</li> <li>政府のデータ共有のパイロット事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SMのD,T&amp;Sが広範に利用可能</li> <li>データ共有の青写真</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロバイダーが、ツールやシステムの使い方を知っている</li> <li>法令により公開され、アクセス可能な政府の主要データ</li> <li>D,T&amp;Sの利用が規範・標準となっている</li> <li>政府のデータにアクセスすることが、標準となっている</li> </ul>
<b>Shared Measurement (SM)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SMを複数の分野でテストする</li> <li>SMのベネフィットと課題をレビューする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SMの原則に同意する</li> <li>SMの青写真に同意する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SMチャンピオンとスポンサーが契約する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>F, C&amp;Isによって活用されるSM</li> <li>役に立つエビデンスとの連携によって、組み込まれたSM</li> <li>SMが傘下の組織、アカデミック、プロバイダー、ファンダー、コミッショナー、投資家の規範・標準となっている</li> </ul>

**10年先の目標**

何千ものプロバイダーのカルチャーにインパクト・サイクルが組み込まれている。

自分のサービスのインパクトについて、一貫した計画を行い、管理し、測定し、コミュニケーションをとっている。

ファンダー、コミッショナー、投資家の大半は、インパクト・アプローチを採用している。

インパクト・サイクルは、組織のカルチャーに組み込まれており、プロバイダーへのインパクトアプローチに誘引を与え、支援している。

効率的な支援のネットワークが存在する。

分野別アプローチにリンクしており、ベストプラクティスに従っている。大半の組織は、必要とされる支援のことやその使い方を知っている。

適切かつ、充分な量の、アクセス可能なデータ、ツール、システムが存在する。

それらは、質、比較可能性の点で標準を満たしており、よいインパクト測定(good impact measurement)の実践を支援する。

Shared measurementアプローチが、大半の分野で適用されている。

標準的な手法と指標が利用され、何が作用しているのかについて識別するために共有されている。

Inspiring Impactが実施すべき優先事項

Inspiring Impactが実施できる優先事項

Inspiring Impactのスコープの外にある優先事項

# ロードマップ作成スケジュールとアウトプット

## スケジュール

8月5日：第1回作業部会

9月上旬：意見交換会（第2回全体会合）  
同日に第2回作業部会開催

9月末：ソーシャル・イノベーション・  
フォーラムで発表

10月上旬：第3回作業部会

10月下旬～11月上旬：パブリックコメント募集

11月下旬：第4回作業部会

12月：発表

## アウトプット

- ①テーマ、②ビジョンの案を作成
- ①テーマ、②ビジョンの確定
- ③アクションプランの検討
- ①テーマ、②ビジョンに関して発表
- ③アクションプラン案確定、④幹事団体検討
- イニシアチブWeb上でパブコメ募集
- パブコメの内容を反映させて完成
- シンポジウムの開催など



テーマ毎に幹事団体を中心にプロジェクトを組成し、ロードマップの実行フェーズへ

# 団体紹介（自己紹介）

- ① 団体毎にA3の紙に、事前に考えてきた下記を記入（2分）
  - ・ 団体名（参加者名）
  - ・ ロードマップ作成に対する意気込み、期待
  - ・ 団体としてロードマップを実現させるために果たせる役割
  
- ② 団体紹介（自己紹介）（各団体1分）
  - ※時間厳守にご協力ください。

# 本日のグループワークの進め方

① 目標年の設定：2020年をゴールに設定してはどうか？

② 3グループに分かれてグループワーク（50分）

※グループ分けは名簿を参照ください。

<グループで決めて欲しいこと>

- 1) ロードマップを構成するテーマについて
- 2) テーマ毎の2020年のビジョン（目標）について

<参考資料（配布）>

- 英国Inspiring Impactが作成したロードマップ
- 内閣府社会的インパクト評価WG報告書 P18～  
「4. 社会的インパクト評価の普及に向けた課題と対応策」
- (別紙) 社会的インパクト評価にかかる課題と対応策

③ 発表・共有